

も・み・じ

101

発行：放送大学福島学習センター
機関誌

〒963-8025

郡山市桑野1丁目22-21

TEL 024-921-7471

いわきサテライトスペース

TEL 0246-22-7318

<https://www.ouj.ac.jp>

－もみじの由来－

福島学習センターの建物は、もみじ館と呼ばれ、郡山女子大学発祥の地である。青葉の頃、紅葉の時期それぞれに美しい色どりが心をなぐさめる。当センター機関誌の名称としてまことにふさわしい。

重要!

お知らせ



- ◆面接授業や学習センター等の重要な情報については、システムWAKABA及び福島学習センターウェブサイトに掲載いたしますので、必ず週に1度はチェックするようにしてください。

システムWAKABA

<https://www.wakaba.ouj.ac.jp/portal/>

福島学習センターウェブサイト

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/>

◆学習センター閉所日について

毎週月曜日・4月29日(土)～5月7日(日)

あわせて『利用の手引き』の日程表、もしくは福島学習センターウェブサイトのセンタースケジュールもご確認ください。7月以降の臨時閉所日については、次号の『もみじ』でお知らせします。

◆システムWAKABA等の不正利用を防ぐためパスワード変更をお願いします。

在学生の方：初期パスワードのままですと、システムにログインできなくなります。

ログインできない方は学生サポートセンター(電話：043-276-5111)・教務課教務係(e-mail：kyomuka@ouj.ac.jp)・学習センターにご連絡ください。

新入生の方：速やかに、初期パスワードを変更してください(システムWAKABAログイン後、トップ画面の「パスワード変更」で変更できます)。

◆機関誌『もみじ』及び『利用の手引き』の配布方法について

配布方法については、福島学習センターウェブサイト内の「機関誌紹介」及び「各種お手続き」(下記URL)に配布方法が掲載されています。配布希望者の方はウェブサイト参照の上、お手続きをしてください。

<https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/about/magazine.html><https://www.sc.ouj.ac.jp/center/fukushima/procedure/>



新任のあいさつ

福島学習センター所長 中 田 スウラ

新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。福島学習センターの教職員一同、皆さまを心より歓迎申し上げます。

さて、現代社会は「VUCA(ブーカ)」時代とも呼ばれ、それはV=Volatility(変動性)、U=Uncertainty(不確実性)、C=Complexity(複雑性)、A=Ambiguity(曖昧性)を意味する4語から構成されています。確かに、デジタル技術の急速な進化や新型コロナウイルスによるパンデミック、ウクライナ戦争の勃発、東日本大震災という人類が初めて経験する複合災害など、近年はこれまで経験したことがないような変化が起きている現実があります。この急速に変化する社会において浮上する多様な地域課題を前では、私たちが過去に得た知識・情報・技術がそれら課題に対応する〈解〉とはなり難く、改めてその時点での〈最適解〉を創出しながら、既成の知識・情報・技術を省察し、それらを革新させることで初めてその向こうに未来が拓かれていくことがわかります。未来を拓く鍵は、持続的な〈解の創造〉に見出されています。

こうした思考性は、生涯学習を前提とする「知識基盤社会」の提唱とも共通しています。「知識基盤社会」は、21世紀の現代社会の特徴を、「新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す」社会として捉えられ、新たな知の創造・継承・活用が社会の発展の基盤と位置づけられています。

その結果、そこで求められる人材の素養・能力は多様なものとなり、「新たな知の創造・継承・活用」のためには、高度の専門的な素養・能力を備えた上で、異なる知識・方法論を持つ多種多様な個々人が集い、それぞれの個性を存分に活かしつつ、チームとしての力を最大限発揮することが重要であると指摘されます。即ち、国内・国際社会ともに一層流動的で複雑化した先行き不透明な時代では、相互の信頼と共生を支える基盤として、他者の歴史・文化・宗教・風俗習慣等を理解・尊重し、他者と積極的にコミュニケーションをとることができる力、その獲得が急務となります。

これら現代社会が内包する諸課題は、持続的な〈解〉の刷新と創造を求め、生涯学習社会のもとでの社会人の学び直しの重要性へと連動しています。こうした動向は、これまでの「伝達」的な教育・学習観をも本質的に問い直させ、これからは、予測不可能な地域課題を省察し進める「課題解決学習」を中心とした、「対話」的・「協働」的な教育・学習観に向けた変革が喫緊の課題と位置づけられています。

この変革への指向性が、必然的に、イノベーションの創造を可能とするための、大学・大学院等での「社会人の学び直し(リカレント教育)」が持つ重要性を再認識させているわけです。放送大学はその機能を担う重要な高等教育機関の一つとなります。放送大学は、多様な学生がもつ属性と経験値を交流させながら、時間や空間の壁を越えやすく誰にでも開かれた高等教育機関としてその社会的責任が期待されています。この期待に襟を正して向かい合い、本学習センターでの人材育成を活かし社会発展を支えるという好循環を、構成員・関係者の皆様と一緒に確立していきたいと思えます。幅広い世代や多様な職業の方を含み多くの方々が学ばれている本学習センターで、皆さまと一緒できることは大きな喜びです。皆様が有意義な学生生活を送られますことを切に願い、ご挨拶とさせていただきます。

皆さん、5年間ありがとうございました

福島学習センター前所長 千葉悦子



5年間の所長職を終えることができました。これもセンターに通われる学生の皆さん、面接授業やゼミに熱心に取り組まれた客員教員や講師の皆さんのご協力と二つの母体校と職員の支えがあったのことに深く感謝申し上げます。

2018年4月、どんな学生に会えるのかとワクワクしながら学習センターの門をくぐったことを昨日のことのように思い出します。しかし、それまで勤めていた通学制大学のように、学生が毎日授業で学習センターに訪れるわけではありません。「どんな学生がいるのか見えない」ともどかしく思うときもありました。しかし、授業で直接顔を合わせることがなくても、次第に触れ合う機会は学生研修旅行や公開講演会、卒研等の学習相談、私が主催した所長ゼミ等、様々にあることが分かっていきます。

年齢も様々、学ぶ動機も色々ですが、知ること、学ぶことに皆さん貪欲です。10年、20年選手も少なくありません。面接授業では質問するのは当たり前、グループワークやディスカッションの時間を望む学生も多い。通学制大学とは異なる放送大学ならではの文化が根付いている証拠です。「役立たない」と人文系軽視、基礎研究軽視の風潮がある中で、哲学や文学、歴史学、社会学、心理学などの人文系科目や数学・物理学などの理系基礎科目を深く学ぼうとする学生さんたちを見て、大学の本来のあり方に立ちかえる思いがすることがしばしばでした。

ところが、2020年1月上旬に新型コロナウイルス感染症が国内で確認されて後、人との接触や移動が大幅に制限されることになりました。当センターでは2020年1学期は面接授業の全面休講、2学期からは定員減で再開、県内居住のみ受講可(2022年1学期まで)、学位記授与式や入学の集いの中止(2021年1学期まで)、学生研修旅行の中止等を次々に実施せざるを得ませんでした。こうして所長職後半3年間は、学生の皆さんとお会いする機会が随分減ってしまいました。

大震災・原発事故関連の面接授業は各学期1～2科目は必ず設けてきた森田前所長のコンセプトを引き継ぎ、さらに震災前からお付き合いのある飯舘村に被災地ツアーやフィールドワークや被災地ツアーを計画していたのですが、それも実現することが叶わなかったのも心残りです。

一方、新型コロナ感染拡大を機に、Web単位認定試験や、Zoomによる代替面接授業の試み、さらに同時双方向Web授業の拡充など、オンライン化が一挙に進みました。今後さらに進むとすれば、学習センターはもはや必要ないでしょうか。否。学生間の交流の場であり対面での学びの場である学習センターの存在価値・役割はますます増すはずです。学生さんも加わって、その在り方を探り出していくことを心より期待しています。

天気の良い日の昼休みには、隣接する開成山公園の桜やバラ園を鑑賞したり、親子連れが遊ぶ遊園地やカモが水浴びする五鈴湖の周辺を運動がてらに散歩するのが私の日課でした。また、コロナ禍で足が遠のきましたが、周辺の飲食店もよく利用させていただきました。これらも郡山5年間の良き思い出です。

皆さんありがとうございました。さようなら。

退任のごあいさつ

福島大学経済経営学類教授
福 富 靖 之



私が生まれ育った愛知県には、コーヒー一杯分の値段で立派なモーニングセットが食べられる、今では全国的にも有名になった特有の喫茶店文化が存在します。御多分にもれず、私も幼少期から父に連れられ、近所の喫茶店で毎週日曜日の午前中を過ごしていました。週末に放送大学でゼミを担当するようになってから、朝早く郡山に赴き、駅前のカフェでコーヒーを飲みながらまったりと1時

間ほど過ごすのを、実は密かな楽しみにしていました。最後の挨拶の代わりに、そうした機会に巡り合ったシャーロック・ホームズやエルキュール・ポワロの教を紹介したいと思います。

はじめに、言ってみたくいけれども、ついぞ使ったことのない自己紹介から。“My name is Sherlock Holmes. It is my business to know what other people do not know.”(私の名前はシャーロック・ホームズです。他の人たちが知らないことを知るのが私の仕事です。)次の言葉も研究者として憧れの一つです。“I am a brain, Watson. The rest of me is a mere appendix.”(ワトソン、私は脳。残りはただの付け足しです。)脳と言え、ポワロが犯人を特定する際の口癖も“Little grey cells”(小さな脳細胞)でした。研究を仕事の一つにして以来、指針としている言葉に、ホームズの“It is a capital mistake to theorize before one has data. Insensibly one begins to twist facts to suit theories, instead of theories to suit facts.”(データを手に入れる前に理論化するのは重大な間違いです。事実合う理論ではなく、無意識のうちに理論に合わせて事実をねじ曲げるようになってしまう。)と、ポワロの“Everything must be taken into account. If the fact will not fit the theory, let the theory go.”(すべてを考慮しなければならない。もし事実が理論に合わないのなら、その理論を手放しなさい。)があります。事実の大切さについては、次のホームズの言葉も参考になります。“You see, but you do not observe. The distinction is clear.”(君は見ているだけで、観察していない。違いは明白です。)ただ漠然と目にしていただけでは、eurekaの瞬間は訪れないのです。そして、そのための諫めと希望の言葉も、ホームズは教えてくれます。“Education never ends, Watson. It is a series of lessons, with the greatest for the last.”(勉強に終わりはない、ワトソン。それは学びの連続で、最後に最大のものが待っている。)これからも、the greatestを求めて、a series of lessonsを積み重ねていきましょう。5年間ありがとうございました。

退任の挨拶

福島大学行政政策学類准教授
大 黒 太 郎



2年間、福島学習センターで「ゼミ」を担当させていただきました。

自分の大学時代。1年のゼミは、指定テキストを読んでも全く理解できないまま授業に参加し、先生が理解できないことをずっとしゃべっている、というものでした(衝撃!大学ってこんなとこなの?)。大学も後半になると、指定されたテキストについて学生がプレゼンを準備し、授業ではレジュメを

使ったプレゼンの後、議論らしい時間がしばらく続き、先生は最後に1言だけ話すという感じ(まあ読んでいなくても何とかなる?)。ドイツの大学のゼミでは、事前に3~5の論文がテキストとして指定されていて、それを読んできていることを前提に、先生が次々と提出する論点について一人ずつ指名され、それに即座に答えていくというものでした(いや、きつすぎる!)。ゼミにはそれぞれのスタイルがあります。

「自由にやってください」というセンター長千葉先生のお言葉にお墨付きを得て、2年間、ゼミを自由にやらせていただきました。

1年目前期こそ、「ドイツの日常生活」を私たちの毎日と比較するというテーマで、私が話をするという普通の講義スタイルから始めましたが、1年目後期には、ゼミ参加者に「みんなと読んで議論してみたい」という書籍を指定してもらい、それについて議論しました。2年目は、「私たちの知らないドイツ」というテーマで、「社会主義東ドイツ」と「ナチスドイツ」という歴史上の「もう一つのドイツ」を描いた映画を選び、その映画紹介を参加者の皆さんに担当してもらいながら、映画鑑賞後みんなで議論するというものでした。

友人と映画を見て、その後カフェや居酒屋で、いま見たばかりの映画について、思ったことを話し合う——みたいに進むのが自分にとっては理想のゼミです。そのため、なんでも話せる人間関係、意見が違って壊れないお互いの信頼、上下のない横のつながり、職業上や生活全般についてのそれぞれの経験の多様性、冗談をいいそれを笑える雰囲気があれば理想的です。きこえないものだったかもしれませんが、2年目のゼミでは、2名の方が映画紹介を担当してくださり、自由な発言もあって、理想のゼミの形が見えた気がしました。2年間飽きずに参加してくださったみなさんには本当に感謝しています。

来年度は、面接授業でドイツ語で遊ぶ授業でお目にかかります。2年間お世話になりました。そしてまた、引き続きよろしく願いいたします。

新任の挨拶

福島大学共生システム理工学類准教授

石川 友保



この度、放送大学福島学習センターで客員教員を務めさせて頂くことになりました石川友保(いしかわ・ともやす)と申します。

福島大学共生システム理工学類の教員(准教授)です。本学類には9つの専門コース(数理・情報科学コース、経営システムコース、物理・システム工学コース、物質科学コース、エネルギーコース、生物環境コース、地球

環境コース、社会計画コース、心理・生理コース)がありますが、このうち、経営システムコースに所属しています。専門分野は物流とオペレーションズ・リサーチです。本務校では、経営工学、流通管理概論、サプライチェーン・マネジメントなどの授業を担当しています。

私は、大学院修了後、シンクタンクや建設機械メーカーなどを経て、福島大学に着任しました。シンクタンクでは人や物の交通調査、建設機械メーカーではセンサデータの分析などを経験しました。福島大学では、実態調査と数学的手法を使って、地域課題の解決に取り組んでいます。実態調査には企業・行政へのヒアリング調査や住民へのアンケート調査や物流活動の観測調査、数学的手法にはオペレーションズ・リサーチなどがあります。そして、地域課題には、過疎地域の物流、災害時の物流、環境にやさしい物流などがあります。

放送大学福島学習センターでは、オペレーションズ・リサーチ(OR)に関する授業を担当させていただきます。ORは問題解決のための科学的手法です。ORは様々な分野で使うことのできる手法であり、私たちの身近な問題にも活用することができます。「オペレーションズ・リサーチ」「OR」という言葉を見るとカタカナや英語で敷居が高い印象がありますが、身近な事例を通じて、オペレーションズ・リサーチはみなさんの生活に活かせる(すでに活かしている)と感じて頂きたいと考えています。授業では、身近な例題を多く挙げつつ、わかりやすい内容にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

大学での学びとは何か？

福島大学人間発達文化学類教授

高田 英和



大学において学習するという時間は、大学に入学するまでに学んできたものを、一旦学び捨てる、と同時に、新たに学び始める、そのためにあるのだと、わたしはとらえています。

通常、わたしたちがこれまで(おおよそ小学校・中学校・高校ならびに実社会で)主として学び構築してきた「人間性」なるもの(例えば道徳心や倫理観すなわち社会規範など)は、はたして、実際のところ、「正しい」ものだったのかどうか、と

いうことを考えることに、大学生活は、あるのではないのでしょうか。

ちょっとカッコイイ言葉で言うなら、learningしてきたものを、un-learningして、で、re-learningする、ということ。あるいは、constructionしてきたことを、de-constructionし、そして、re-constructionすることになるかなと。

別にこれは、大学においてだけに限定されることなく、大学生活を終えても続いていくことだと思います。このサイクルを生涯にわたって行っていくことの重要さと術を、大学できちんと身につけることができる、ここにこそ、大学の存在する価値があるはずです。

この今の時代、グローバルの時代において、端的に言えば、「知識」は、21世紀に生きるわたしたちにとって、非常に重要です。これは、特に、自由と個人に重きを置く現代社会の(言わば、自由主義・個人主義という暴力と表裏一体の関係にある、格差・二極化や自助努力・自己責任といった)諸問題から目を背けず、それらの問題に対処することに費やされるべきでしょう。決して例えば経済や個々の「成長」とかいうものに向かうのではなくて。

世界の、この自由と個人を基盤にした、グローバル化の潮流に積極的に乗ることが、実のところ、格差・二極化を生み出し、そして、それは同時に、自助努力・自己責任という名のもとに自然視・自然化されています。これは、非常にゆゆしき事態です。この点を踏まえたうえで、このような時代における、大学で学び習得する「知識」、その意義と価値は、端的に言うと、グローバル化(新自由主義)の波に抗い、格差社会を是正することの重要性和その正当化にあるでしょう。老若男女、セクシュアリティ、人種など、あらゆる差異を問わない、平等で平穏な社会を(再)構築すること、それこそが大学の存在意義であると、わたしは強く思っています。

さあ、大学で、大いに、学びましょう！

*

(はじめの挨拶なのに、なんか説教臭くて、すみません…。でも、言っておきたかったし。自分で言うのもあれだけど、こう見えて、あたし、とてもまじめでして。)

令和5年度 第1学期 ゼミのお知らせ

テーマ 「遺跡活用の実際」



會田 容弘 先生

会場 福島学習センター

講義概要

北海道・北東北の縄文遺跡群が世界遺産に登録されました。私たちにとって遺跡は貴重な文化財であり、未来へ引き継ぐ歴史遺産です。そのような遺跡がどのようにして、保存され、史跡に指定され、整備されるのか、あまり知られていないのではないのでしょうか。いくつかの整備された遺跡を取り上げて、その過程を説明します。実際に整備された遺跡見学も行いたいものです。

- 1 4月8日(土) 13:00～14:30 史跡里浜貝塚(縄文時代)の保存、整備への道のりを説明します。調査の経緯から国指定史跡への道のり、整備方針、整備の結果などをお話します。
- 2 4月15日(土) 13:00～14:30 里浜縄文の里史跡公園の整備状況と、活用について説明します。
- 3 5月13日(土) 13:00～14:30 富沢遺跡(旧石器時代)の発見、調査、保存そして現在の活用状況について説明します。「世界にここだけ、富沢遺跡保存館」です。
- 4 5月20日(土) 13:00～14:30 山田上ノ台遺跡(旧石器、縄文時代)の調査と保存の経緯を説明します。体験型の活用を行っている「縄文の森広場」を紹介します。
- 5 6月17日(土) 13:00～14:30 福島市(旧飯野町)史跡和台遺跡の調査と発見、保存の道のりを紹介します。それから保存活用への長い道のりです。現在進行中の活用計画などをお話します。
- 6 6月24日(土) 13:00～14:30 文化庁が近年「文化観光」政策を進めようとしています。大規模な建物遺構の復元、文化財を用いたまちづくりなどもおこなわれています。福島県の文化財行政を知ってみましょう。
- 7 7月1日(土) 13:00～14:30 望ましい遺跡保存と活用法について、整備を行う側と利用する側の両方の立場から意見を述べてみたいと考えています。

テーマ 「中高年の心理～エイジング～」



五十嵐 敦 先生

会場 福島学習センター

講義概要

現代社会は超高齢社会と言われています。「花も実もある」中高年について生涯発達心理学の視点から取り上げます。歳を重ねること(エイジング)のプロセスについて、変化とその適応の姿を様々な角度からとらえてみようと思います。

なお、各回のテーマは、進行状況によって変更することもあります。

- 1 4月9日(日) 15:00～16:30 エイジングについて～社会の中の中高年
- 2 4月22日(土) 10:00～11:30 中高年の心理社会的発達～生涯発達心理学の位置づけ
- 3 5月21日(日) 10:00～11:30 中高年のこころと身体(1)～機能の変化とその特徴
- 4 5月27日(土) 15:00～16:30 中高年のこころと身体(2)～パーソナリティと健康生活
- 5 6月3日(土) 10:00～11:30 中高年と家族～ライフスタイルと適応問題
- 6 6月18日(日) 10:00～11:30 中高年の働き方～キャリア形成の過程
- 7 6月24日(土) 15:00～16:30 これからの社会とエイジングを考える

—ゼミの受講について—

ゼミは、客員教員がテーマに沿って授業を行います。

ただし、面接授業とは違い、一方的に授業をすすめるものではありません。学生さんとの対話をしながら授業を行っていきます。

1回ごとに行われていますので、途中からでも参加できます。ゼミを受講する場合の申し込み・授業料は不要です。正規の単位にはなりませんが、積極的な参加をお待ちしております。

※都合により、日程が変更になる場合があります。その都度、館内に掲示お知らせいたします。なお、日程の確認は電話での問い合わせも可能です。

テーマ 「身近な例題で学ぶOR」



石川 友保 先生

会場

福島学習センター

講義概要

オペレーションズ・リサーチ(OR)は、問題解決のための科学的手法です。ORは様々な分野で使うことのできる手法であり、私たちの身近な問題にも活用することができます。本ゼミでは、「ORワークブック」(日科技連、1984年)やOR関連本の中から、身近な例題を厳選し、毎回1つのテーマについてじっくり解説します。本ゼミでは身近な例題を通じて、ORでどのような問題が解けるのかを学びます。

- 1 4月9日(日) 「経済性分析」(経済性を考えると、どちらの機械を買うべきか?)
10:00~11:30
- 2 4月23日(日) 「在庫管理」(ちょうどよい在庫を保つためには、いつ・どれくらい注文すれば良いか?)
10:00~11:30
- 3 5月14日(日) 「動的計画法」(普通列車と急行列車をどのように乗り継いだら良いか?)
10:00~11:30
- 4 5月28日(日) 「線形計画」(必要な栄養素がとれる献立は何か?)
10:00~11:30
- 5 6月4日(日) 「待ち行列」(銀行窓口の待ち時間を減らすためには、どうすれば良いか?)
10:00~11:30
- 6 6月11日(日) 「日程管理」(予定通りに仕事を終えるためには、それぞれの作業をいつ始めていつまでに終わらせれば良いか?)
10:00~11:30
- 7 6月25日(日) 「身近な問題を解こう」(参加者で、身近な問題を持ち寄ろう)
10:00~11:30

テーマ 「英国の文学を通して 社会と文化と人びとを読む」



高田 英和 先生

会場

福島学習センター

講義概要

近代の、英国の、児童文学を読解することによって、比喩やイメージ、時代背景など、社会/文化的な理解(階級、愛、友情など)を深めること、これをこのゼミでは目指します。また、映像・アニメーション等を用いて、近代英国児童文学、その作品の現代的な受容と意義についても、考察します。授業では、予習してきたものをもとに、プレゼンテーション、質疑応答、ディスカッションなどの活動を、主体的に行っていきます。

- 1 4月15日(土) 英国の文学とは何であったのか? ——授業概要の説明、作品/作者とその時代について
10:00~11:30
- 2 4月22日(土) 英文学と社会① ——大人と家父長制
13:00~14:30
- 3 5月13日(土) 英文学と社会② ——子どもと愛
10:00~11:30
- 4 5月27日(土) イギリス文学と文化① ——田舎と都会
10:00~11:30
- 5 6月10日(土) イギリス文学と文化② ——若さと成長
10:00~11:30
- 6 6月24日(土) 人びとの/とEnglish Literature ——国家と国民
10:00~11:30
- 7 7月1日(土) 英国の文学とは何であるのか? ——さまざまな国、社会/文化における受容について
10:00~11:30

令和5年度 第1学期 ゼミのお知らせ

—ゼミの受講について—

ゼミは、客員教員がテーマに沿って授業を行います。
ただし、面接授業とは違い、一方的に授業をすすめるものではありません。学生さんとお話をしながら授業を行っていきます。

1回ごとに行われていますので、途中からでも参加できます。ゼミを受講する場合の申し込み・授業料は不要です。正規の単位にはなりませんが、積極的な参加をお待ちしております。

※都合により、日程が変更になる場合があります。その都度、館内に掲示しお知らせいたします。なお、日程の確認は電話での問い合わせも可能です。

テーマ「地域の多文化化と子どもの権利」



南雲 勇多 先生

会場

いわきサテライトスペース

講義概要

地域の多文化化は“古くて新しい”現象であり、近年は“より”多文化化しています。そうした“豊かさ”への可能性の一方で、多文化化に関連して地域における課題も多様化・複雑化しています。「多文化共生」という言葉も、以前にも増して見受けられるようになりました。そのような地域において、子どもはどのような学び・育ちを経験していくのでしょうか。子どもの権利を視点として、地域の多文化化と其中で生きゆく子どもをめぐる課題について、参加者と共に考えていければと思います。

- | | | |
|---|-------------------------|--|
| 1 | 4月15日(土)
15:00~16:30 | はじめに：
多文化化する地域と子ども |
| 2 | 4月22日(土)
15:00~16:30 | 多文化共生をどのように捉えるか |
| 3 | 5月13日(土)
15:00~16:30 | 地域の多文化化における
子どもの権利①
：ジェンダー文化と子ども |
| 4 | 5月20日(土)
15:00~16:30 | 地域の多文化化における
子どもの権利②
：障害文化と子ども |
| 5 | 6月10日(土)
13:00~14:30 | 地域の多文化化における
子どもの権利③
：外国ルーツの文化と子ども(1) |
| 6 | 6月10日(土)
14:40~16:10 | 地域の多文化化における
子どもの権利④
：外国ルーツの文化と子ども(2) |
| 7 | 6月17日(土)
15:00~16:30 | おわりに：地域の多文化化と
子どもの権利 |

※同日開催、時間の変則にお気をつけください。

M E M O



学生サークル紹介

福島登山サークル



登山サークルでは登山を通じ、体力、気力を養うとともに仲間意識の高揚と親睦を図ることを目的として活動を行っています。また気候や環境を肌に触れ、動植物の観察などを通じ自然の理解を深めます。名湯を探し入浴するのも楽しみの一つです。

山行は、ほぼ月1回、県内各地の山を中心に、1～2回は宿泊し日本百名山にも登ります。

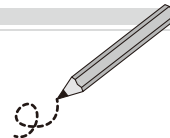
令和4年は、コロナ感染を注意しながら4月鳥屋山(喜多方)、5月会津駒ヶ岳(松枝岐)・蓬田岳(平田村)、6月笠ヶ森山(須賀川)、8月巻機山(新潟)、9月吾妻:谷地平(福島)、10月吾妻:不動沢～五色沼(福島)、11月高旗山(郡山)12月朝日山:芋煮会(いわき)に登りました(7月浅草岳は悪天候により中止)。その中でも鳥屋山からみた雪を抱いた飯豊山、吾妻山の紅葉と雲海は印象的でした。

個々人の希望と体力にあった山を選んで登山を楽しめればと思っています。お試し参加も歓迎します。

入会希望 問い合わせ先 (会長) 高橋八重子 TEL/FAX024-944-8342

(幹事) 斎藤 芳久 TEL/FAX024-546-8676 携帯080-1809-0046 e-mail:saito-y@chive.ocn.ne.jp

会津学知会



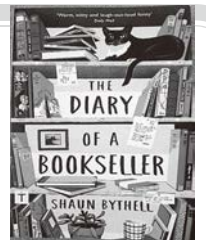
会津学知会は放送大学での学びを通し、生涯学習の実践と地域ボランティア活動の実現を目的に以下の活動を行う学生サークルです。

- ①定例会 各会員がテーマを決め、資料を作成し、ゼミ形式で発表します。毎月1回行います。
- ②歴史散策 会津の歴史を知るための散策で、ガイドは会員(ボランティアガイド資格者)が努めます。昨年度は旧滝沢本陣・飯盛山・栄螺堂の散策、そして昼食・懇親会です。
- ③ミニ講演会 毎年一般の方が多く参加されます。昨年度は、成田 正良(会津若松地域教コーディネータ)氏による「山川健次郎、捨松の生き方に学ぶ」です。

会津学知会の活動内容はホームページにて公開しております。ぜひご入会下さい。お待ちしております。

会津学知会ホームページ:<http://aizugakutikai.yaekumo.com>

Book Club



「Book Club」は英米文学作品の原書を輪読している同好会です。会の開催は、福島学習センターの英語ゼミ実施日に合わせて、第1学期(4月～7月)、第2学期(10月～12月)の期間、月2回～3回、土曜又は日曜日に1回90分実施しております。4月は前年よりの継続でF.スコット・フィッツェラルド著『THE GREAT Gatsby』に取り組み、5月以降はショーン・バイセル著『THE DIARY OF A BOOKSELLER』を輪読します。この出版のもとになったのはスコットランドにおいて斜陽の町といわれたウィグタウンでバイセル氏が、書物の町としての町おこしの一環として資金を投じ、書店主となりイギリス屈指の大古書店にしたことです。この書はバイセル氏の「独り言」を書き留めた日誌ですが、人間喜劇を見ているような店主・店員のふるまい、さらに顧客の一風変わった言動などが生き生きとした文章で綴られています。毒にも薬にもならない好著として推薦されている書です。詳しいことは下記に問い合わせてください。

会長 清田直樹 024-952-2169 事務局 根本芳則 080-1835-3863

事務室からのお知らせ

◆学生証の発行について

福島学習センター及びいわきサテライトスペースでは**4月5日(水)14時以降**から学生証を交付いたします。次の学生の方は、所属する学習センター窓口で手続きを行ってください。

「4月に入学(再入学を含む)した学生の方→入学許可書を持参してください。
「学生証の有効期限切れ(全科履修生：令和5年3月末)の方→古い学生証を持参してください。

郵送による発行を希望する方は①入学許可書又は古い学生証、②身分証明書(顔写真付き)のコピー、③返信用封筒(長3・宛名明記・切手244円分貼付)を同封のうえ、所属学習センターへ送付してください。

◆通信指導の提出について

4月から登録した科目及び再提出の方は、**5月16日(火)～5月30日(火)大学本部必着**で送付してください。通信指導問題は基本的に印刷教材と一緒に発送しますが、**5月9日まで**に届かない場合は大学本部(043-276-5111)に連絡してください。提出期限を過ぎて到着したものは受理できませんので、余裕を持って作成してください。

提出については、一部の科目を除き、郵送によるもののほか、インターネット上で通信指導問題の提出・解説の閲覧ができる「Web通信指導」が利用可能です。詳しくは、システムWAKABA(「キャンパスライフ」⇒「学内連絡」)をご覧ください。

◆住所等変更届

現住所、連絡先の電話番号に変更があったときは、速やかに手続きしてください(システムWAKABAからも変更できます)。現住所の変更は、最寄りの郵便局にも「転居届」を提出してください。

◆学生用駐車場について

福島学習センターでは、**令和3年10月より、学生用駐車場が大東銀行事務センター手前の郡山開成学園敷地に変更になりました**(福島学習センターウェブサイト「この学習センターについて」→「アクセス」にてご確認ください)。学生用駐車場を利用する際には、利用許可証が必要になります。学習センター事務室で駐車場利用許可証交付願に車種とナンバーを記入し、申請してください。

郵送で申請する場合は、①学生証又は入学許可書のコピー、②放送大学駐車場利用許可証交付願(福島学習センターウェブサイト「この学習センターについて」→「アクセス」→「交通案内」に様式有)、③返信用封筒(宛名明記、切手貼付)を同封のうえ、福島学習センター宛に送付してください。

退任のお知らせ

前年度までいわきサテライトスペース職員であった矢部忠ですが、委嘱を解かれ、東日本国際大学に復職になります。

学生及び教職員の方々には大変お世話になりました。本当にこれまでありがとうございました。

面接授業 開設科目一覧

2023年度 1 学期福島学習センター開設科目

科目コード	科目区分	時 間	科目名	担当講師	実 施 日	定 員	受付期限
2613948 110(初級)	基盤科目	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	新・初歩からのパソコン	菅野 浩子	4月15日(土) 4月16日(日)	10	受け付けません
2614588 320(中級)	専門科目 自然と環境		気象学	吉田 龍平	4月15日(土) 4月16日(日)	15	受け付けません
2614456 120(中級)	基盤科目 外国語	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	はじめてのドイツ、旅のドイツ語	大黒 太郎	4月22日(土) 4月23日(日)	15	受け付けません
2614480 220(中級)	導入科目 人間と文化		音楽療法ちょっとのぞき見	佐藤 久美	4月22日(土) 4月23日(日)	15	受け付けません
2614502 320(中級)	専門科目 生活と福祉	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	健康を支える食生活	會田 久仁子	5月13日(土) 5月14日(日)	15	5月6日(土)
2614537 320(中級)	専門科目 心理と教育		日常の中の臨床心理学	宇治 和子	5月13日(土) 5月14日(日)	15	5月6日(土)
2614561 320(中級)	専門科目 人間と文化	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	「人新世」時代のイヌイトの挑戦	大村 敬一	5月17日(水) 5月18日(木)	15	5月10日(水)
2614499 220(中級)	導入科目 人間と文化	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	版画の基本と会津型紙	齊藤 弘久	5月20日(土) 5月21日(日)	15	5月13日(土)
2614570 320(中級)	専門科目 情報		マルチメディア情報処理の基礎	柳沼 良知	5月20日(土) 5月21日(日)	15	5月13日(土)
2613387 320(中級)	専門科目 心理と教育	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	心理学実験 2	木暮 照正	5月27日(土) 5月28日(日)	15	5月20日(土)
2614545 320(中級)	専門科目 社会と産業		福島県の廃棄物・ごみを考える	沼田 大輔	5月27日(土) 5月28日(日)	15	5月20日(土)
2614464 120(中級)	基盤科目 外国語	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	英語ライティング	佐藤 元樹	6月3日(土) 6月4日(日)	15	5月27日(土)
2614553 320(中級)	専門科目 社会と産業		日本建築の見方と評価法	長田 城治	6月3日(土) 6月4日(日)	15	5月27日(土)
2613409 320(中級)	専門科目 心理と教育	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	心理学実験 3	木暮 照正	6月10日(土) 6月11日(日)	24	6月3日(土)
2614472 220(中級)	導入科目 社会と産業	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	地域のグローバル化を深く考える	岸見 太一	6月17日(土) 6月18日(日)	15	6月10日(土)
2614510 320(中級)	専門科目 生活と福祉		健康生成論とストレス対処力	戸ヶ里 泰典	6月17日(土) 6月18日(日)	15	6月10日(土)
2614529 320(中級)	専門科目 生活と福祉	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	豊かな住生活を考える	阿部 恵利子	6月24日(土) 6月25日(日)	15	6月17日(土)

※敬称略。学生間の間隔を確保するため通常の定員を15名としています。担当講師の指定がある場合は15名よりも少ない場合があります。また、同日開講の科目がない場合は教室を広く使い定員を多くしている科目もあります。※日程、不測の事態の授業形態については変更になることがあります。不測の事態の授業形態については放送大学ホームページや時間割冊子をご確認ください。

2023年度 1 学期いわきサテライトスペース開設科目

科目コード	科目区分	時 間	科目名	担当講師	実 施 日	定 員	受付期限
2614626 320(中級)	専門科目 社会と産業	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	観光学への招待	三浦 健一	5月13日(土) 5月14日(日)	14	5月6日(土)
2614634 320(中級)	専門科目 人間と文化	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	中国文化の「ユートピア」志向	田村 立波	5月20日(土) 5月21日(日)	14	5月13日(土)
2614618 320(中級)	専門科目 心理と教育	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	生活心理学(心理学入門)	李 和貞	7月1日(土)※ 7月2日(日)※	14	6月24日(土)
2614642 420(中級)	総合科目	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	子どもの権利のための市民活動論	南雲 勇多	6月3日(土) 6月4日(日)	14	5月27日(土)
2614596 120(中級)	基盤科目 外国語	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	歌と英米児童文学で学ぶ英語	田中 渡	6月17日(土) 6月18日(日)	14	6月10日(土)
2614600 220(中級)	導入科目 生活と福祉	1 時限～4 時限 (9:30～16:40)	地域生活と社会福祉システム	久保 美由紀	6月24日(土) 6月25日(日)	14	6月17日(土)

※敬称略。学生間の間隔を確保するため定員を14名としています。※日程、不測の事態の授業形態については変更になることがあります。不測の事態の授業形態については放送大学ホームページや時間割冊子をご確認ください。

※生活心理学(心理学入門)については時間割冊子記載時から日程が変更となっています。インターネット上で公開しているシラバスについては上記と同じく新しい日程に修正しています。

福島学習センター・いわきサテライトスペース開設科目に係る 面接授業追加科目登録申請について

～まだ空席がある面接授業(スクーリング)について履修者を追加募集しています～

●面接授業について

面接授業(スクーリング)は、教室などで教員から直接受ける授業のことをいいます。面接授業は全て、1科目1単位です。全科履修生は、卒業するために面接授業又はオンライン授業の単位を20単位以上修得する必要があります。選科・科目履修生は必修ではありませんが、自分の学習したい内容にあわせた面接授業を受講することができます。空席のある科目について追加で科目登録ができますのでご案内いたします。

教科書・参考書について

教科書は講義の中で使用するものです。必ず各自で購入してください。教科書がないと授業だけでなくレポートの執筆にも影響することがあります。

参考書は必ず購入しなければならないものではありませんが、講義を理解するうえで参考になるものです。学習センター図書室で閲覧できるものもあります。

学生教育研究災害傷害保険について

要保険加入の科目は「学生教育研究災害傷害保険」加入者を対象としていますので、未加入の方は必ず前日までに最寄学習センターにて加入してください。

開設科目の確認

- ・面接授業開設科目一覧
- ・面接授業時間割表[北海道・東北ブロック]
- ・放送大学ホームページ
- ・システムWAKABA
- ・学習センター掲示

※福島・いわき以外で開設の面接授業については開設する学習センターに問い合わせてください。

●申し込み方法

空席を確認してください

空 席 発 表 令和5年4月15日(土) 12時

●開設科目の空席状況が発表になります。

学習センター・サテライトスペースの掲示板・ホームページ・電話(024-921-7471)で確認できます。

希望する面接授業の事前申請をしてください

事前申請期間 令和5年4月15日(土)～19日(水)

●郵送または直接来所して事前申請をしてください。 電話・FAX・Eメールによる受付はできません。

	来 所	郵 送
必要なもの	科目追加登録申請書 学生証(学生証持参なら 代理人でも可)	科目追加登録申請書 (学生証写し添付)
申請方法	福島学習センター及び いわきサテライトスペース へ学生証を持参して来所 する	福島学習センターへ封 書の表に「科目追加登録 申請書在中」と朱書きし 郵送

追加科目登録者を決定します

●事前申請者に対し、申請の結果(可否)を登録開始日の4月20日(木)、10時30分～12時の間に電話で連絡します。

なお、この時間に連絡がとれなかった方は、15時までに024-921-7471まで電話してください。

上記以後、追加科目登録期間が変わります

4月～7月開講の授業：4月20日(木)～科目ごとに定められた追加登録受付
期限日

授業料について

●授業料の支払について

納付は学習センター窓口又は郵送でお願いします。なお、追加科目登録受付期間中、空席が生じている科目については、先着順で受け付けいたしますので、授業料を添えて申し込んでください。

●授業料を郵送する場合

- 【授 業 料】 ◆現金書留又は郵便為替 5,500円
【返信用封筒】 ◆宛名明記
◆84円切手添付
◆長形3号

空席発表

事前申請期間

追加登録発表

追加科目登録受付期間

2023年度（令和5年度）第1学期

面接授業 (_____ 学習センター
サテライトスペース 開設科目) 科目追加登録申請書

学 生 番 号		-						-	
---------	--	---	--	--	--	--	--	---	--

氏 名		
連 絡 先	〒 ー	電 話： () メール：

学生証（写）貼付欄

〈郵送の場合は、学生証（写）の添付のない申請書は無効です〉

- 一度登録した科目の変更・取消、授業料の返還はできませんので、あらかじめご了承ください。
- 追加登録申請書は郵送する前に必ず(写)をとり保管しておいてください。

希望	科 目 コ ー ド	クラス	科 目 名	第1回目の日程
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				

備考

いわきサテライトスペース移転のお知らせ

**2023年3月1日より放送大学いわきサテライトスペースは
いわき市社会福祉センター4階に移転いたしました。**

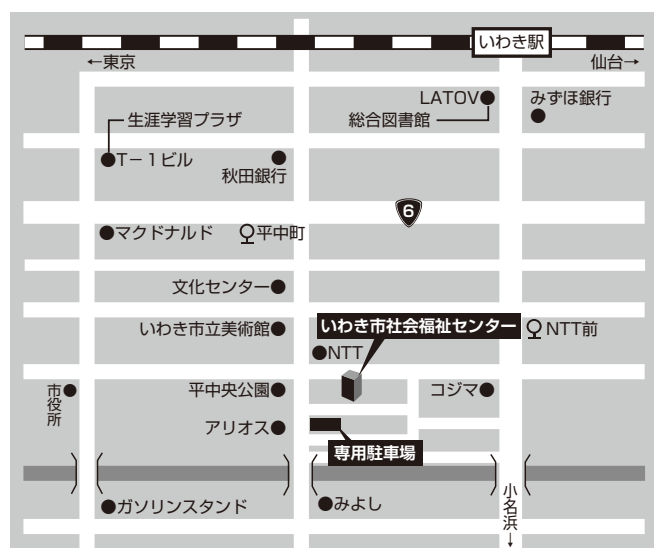
新センターは市役所や市立美術館、芸術文化交流館アリオス等が隣接しているいわき市の中心に設置された利便性の高い施設になっています。学生の皆さまが今まで以上のよりよい環境で学習を続けられますよう、職員一同努力してまいります。

いわきサテライトスペース職員 鈴木智恵子・田久和子

新住所 〒970-8026

福島県いわき市平字菱川町1番地の3(いわき市社会福祉センター4階)

電話番号 0246-22-7318 (FAX)0246-22-7320



交通アクセス JR常磐線 「いわき駅」から徒歩15分

新常磐交通バス いわき駅バスターミナル

3番ポールから内郷行 「平中町」下車徒歩5分

6番ポールから小名浜行 「NHK前」下車徒歩5分

駐車場 いわき市社会福祉センター敷
地内及びいわき税務署隣り専
用駐車場(右地図参照)

上記駐車場が満車の場合は、近隣の市営
駐車場をご利用ください。

